あと少し...

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あと少し…

【Nコード】

N37000

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

『もうダメだ』と歩き続ける男

(前書き)

その時妻は…

『もうダメだ』この言葉を何度、頭のなかで唱えただろう。

私は歩いてきた。はたから見れば、ウォーキング中のオッサンだろう。確かに初めは、軽い気持ちでウォーキングに出掛けた。

『普段歩くコースより少し長く歩いてやろう』と考えたのが、地獄の始まりだったのかもしれない。

もう少し遠くへ、もう少し遠くへと歩いている内に知らない場所に出た。いつも車で通る道の傍だったので、探検気分でウロウロした。

少し体にけだるさを感じ始めて『帰ろうか』と後ろを振り向いた。

……私は どこから 来たのだ。

突然けだるさと言うよりも疲れの塊を背負わされた気分になった。

探検気分で歩いた道はまるで迷路のようだった。知らない道が、見覚えのある道に見え、家へと続く筈の道へ行くと知らない場所に出る。

また、さまよった拳げ句、見覚えのある気がする道に出ると、知っているとされる方向に進み知らない場所へと続く。

『もうダメだ』私の頭は限界の声を挙げていた。頭だけでない、足も手も痺れて感覚すら薄くなっていた。頭はボクツとし、目の前はまるで雲の上を歩いているかのように揺れていた。

それでも私は歩き続けた。……そしてようやく、知らない道の入口に辿り着いた。

……気が付くと私は家の中で妻に膝枕をされ横になっていた。

どうやって帰って来たのか分からない。妻は素知らぬ顔をしていたが、子供達は泣いていた。

帰って……来れた。帰って来れた！と嬉しさに涙がこぼれた。

体は汗でぐっしりと濡れていた。妻が風呂を薦めるので、風呂に入る事にした。

風呂の準備をしようと自分の部屋へ向かう途中、妻の『チッ』という小さな舌打ちが聞こえた。

あの舌打ちは何だったのだろうか……。

(後書き)

男の心…

妻の心境…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3700o/>

あと少し...

2010年10月17日23時11分発行